

第 62 回国連女性の地位委員会参加 報告書

2018 年 6 月 21 日

大学女性協会

会長 鷺見八重子 殿

CSW62 若者支援参加

植田奈穂美

標記につき、若者支援によって参加させて頂きましたので、以下の通り概要、所感を報告させていただきます。

記

1) 概要

期間：2018 年 3 月 10 日～3 月 23 日

場所：国際連合本部、日本政府代表部 その他

優先テーマ：「農漁山村の女性・女児のジェンダー平等とエンパワーメント達成のためのチャレンジと機会」

2) 所感

①優先テーマについて

CSW62 の優先テーマに対する合意結論の策定のため、本 CSW では農漁山村地域からの参加が強化され、当事者の声を受けての合意結論形成が重要視された。この点は、SDGs のスローガンである「誰一人取り残さない」を、CSW を通じて実現するために非常に有意義であったと感じた。しかし同時に、農漁山村地域の女性の地位の向上の議論について、日本人がどれだけの存在感を示す事が出来るのか、そしてその議論に参画する意義をどのように示す事が出来るのかについては課題を感じた。例えば、CSW62 期間中に行なわれたユースダイアログにおいては、参加者の多くが農漁山村からの若者で占められ、当事者としての声をいかに最終報告に集約するかが重視された。その中で、日本人としてどのようにその議論に参画していくべきなのかは非常に難しいと感じる場面もあつ

た。その他にも、日本人としていかに今回の優先テーマに効果的にコミットして行くべきか、自分の役割をいかに見つけるか、課題を感じた面も多かった。この経験を、今後より多様化するジェンダー、多様性に関する議論に取り組むに当たり活かしていきたいと強く感じた。

②ユースダイアログについて

ユースダイアログは、CSW62 会期中の 3 月 17 日、9 時 30 分～16 時 30 分に開催された。参加者の 8 割は農漁山村出身者となるように参加者がスクリーニングされた点は、当事者の声を重視した CSW として非常に良い取組だったと感じた。しかし一方で、その運営面においては課題が多かったと感じる。開催前の事前に連絡においては、開催場所、時間に関する異なる情報が事務局から複数回に渡り届くなど、混乱があった。また、スクリーニングを経て自身がユースダイアログへの参加資格を得たかどうかの連絡方法が明瞭でなかった点もあり、実質的にそのスクリーニングがどこまで機能していたのかが疑問に残った。

③ユース代表としての活動について

CSW62 では、日本政府代表団のユース代表という役目を頂き、会期中も様々な貴重な経験をさせて頂いた。その内容は大きく以下の 2 つである。

- 1) ユースダイアログに参加し、その報告書を提出する
- 2) 各国のユースに関するサイドイベントに参加し、日本のユースとして発言する

この他にも、国連代表部社会部の齋藤純公使を始めとする国連代表部の方々とユースの CSW における活動について意見を交換させて頂く機会なども頂戴した。近年国連はその活動におけるユースの参画の重要性を強調している。CSW においても、前述したユースダイアログの実施を始めとしてその姿勢は明らかであった。CSW61 から始まったユースの日本政府代表団への参加だが、その存在意義を今後も重視して頂き、より積極的にユースの役割を認識して頂く事は、国連の場での日本のプレゼンス向上に寄与すると考えられる。その為には、政府代表団の皆様のみではなく、ユースを派遣して下さる NGO、そしてユース自身も、いかにより本質的にその役割を国連の場で果たして行く事が出来るのかを考えて行く必要があると感じる。

以上